

令和4年5月31日

事業評価書（事後評価）要旨

○ 政策評価の対象とした政策

正倉院宝物再現模造全国巡回事業（事業評価）

○ 政策の目的

正倉院宝物を忠実に再現した「再現模造」を2年間で全国8か所の会場で展示することにより、日本文化の伝統を継承することの重要性とその意義について紹介するとともに理解の向上を図る。

○ 政策評価の結果の概要

（必要性）

全国7か所（8か所のうち1か所は令和4年度に延期）の展示会場には、合わせて約16万5千人もの来場者があった。

来場者のアンケート結果によると、その多くが、これまで正倉院宝物に興味があったものの、実物を見たことはなかったと回答しており、このことから本事業が必要性の高いものであったとすることができる。

（有効性）

来場者のアンケート結果によると、展覧会の満足度において、9割を超える回答が肯定的なものであり、また、学識経験者からも、本展が日本の伝統技術を継承することの意義を確認する良い場となったとの評価を得ている。

（効率性）

本事業において当庁は、巡回展示にかかる費用を負担しておらず、また、広報についても、主催者である報道機関や会場である博物館等による広報活動により実施しており、費用をかけずに十分な成果を挙げている。

（今後の課題）

今後の展示においては、若年層も理解が容易な展示方法を検討する。

また、「再現模造」製作について、国内外に向けて広く発信していく必要があることから、当庁ホームページでの発信強化について検討する。